

今日のみことば

□ 5月13日(日) 列王記上 14章

ヤロブアムは主から離れた生活をしていましたが、いざとなると神に頼ろうとした。偶像神を拝んだヤロブアムは神への反逆の罪を犯し、神は彼の家を絶たれた。

□ 5月14日(月) 列王記上 15章

王国の分裂後、北の王国イスラエルは、初代の王ヤロブアムのように、神に従順でない王ばかりが出たが、南の王国ユダでは神に従順な王が何人か現れた。

□ 5月15日(火) 列王記上 16章

北王国イスラエルには、主のみ心に従う王は一人もいなかった。しかし彼らが王位に就くことは、神のみ心であった。しかし彼らは神のみ心にはかなわなかった。

□ 5月16日(水) 列王記上 17章

バアルは天候の神として礼拝されていたので、神は、ご自分のみが太陽と雨とを支配する権威をもっていることを示されたそれで神はバアルの町にエリヤを遣わされた。

□ 5月17日(木) 列王記上 18章

預言者エリヤは偶像神バアルの預言者に挑戦した。バアルは雨を降らせ、火をも作るはずであったが、この対決によって、主こそ生ける神であることを証明した。

□ 5月18日(金) 列王記上 19章

対決のは勝利したが、イゼベルの追及にエリヤが南方に逃れた。神はエリヤに静かに語られ、彼の不安を取り除かれ、後継者であるエリシャを示された。

□ 5月19日(土) 列王記上 20章

アハブ王はアラム軍の威力に怖じ気づいたが、ベン・ハダテを怒らせたりしたアハブ王の邪悪さにもかかわらず、神はその民を見捨てられなかった。

ろ ぼ No. 1867
2018年 5月13日
日本バプテスト 立川キリスト教会
牧師 大川 博之

箴言 31:28

息子は立って彼女を幸いな人と呼び／夫は彼女をたたえて言う。

「母の日」を覚えさせていただくことは、「父の日」を覚えさせていただくことと共に、私は人として大事なことだと思っています。最近はジェンダーが問題視されることで、その取扱いが話題になっていますが、私はその差異はしっかりと受け止めなければならない大事なことだと思っています。神さまはそれぞれに大切な役目を与えられ、尊いものとされました。

神さまが創造された一つ一つに大切な務めを与えておいでになるということ、私たちが忘れてはならないと思っています。家族の関係もまたそうです。母親が与えられたことを私は大切にしなければなりません。同じように私は父親のことも忘れさせていただくことはできません。本当に私たちが忘れてはならない大

切なことは、まずそれを受け入れることから始まるのです。そして聖書は、母親の大切な働きを語ってくれます。私はサムエルの母ハンナにそのことを聞かせていただくのでした。神さまが彼女の祈りを聞きサムエルを与えて下さったとき祈りました「私はこの子を主にゆだねます。この子は生涯、主にゆだねられた者です」(サムエル上1:28)と祈り、その祈りの言葉が二章にあります。私はこの祈りはハンナだけの祈りではなく、世のすべての母親が、子が与えられたときの喜びの思いを伝えられる祈りだと聞かせていただいています。そのような思いでの子育て

を、私はしっかりと心に留めさせていただいておかねばならないことだと聞かせていただくのです。

この箴言の言葉は実に、私たちに驚くべきことを語ってくれます。マサの王レムエル（ソロモン）が母から教えられたものです。「口を開いて知恵の言葉を語り、慈しみの教えをその舌にのせる」と言いましたが、この言葉をどのように聞かれますか。また「一族の様子によく目を配り／怠惰のパンを食べることはない」と言います。私たちは今日、いかに子どもを豊かに育てることに心を砕いておられる母親が多いかを知っていますしかし、いかに私たちが心を尽くしても、私たちの思いにかなうと言うことにはなりません。ソロモンは品性においても、歴史上の人物の中でも立派でしたが、「若者を歩むべき道の初めに教育せよ。年老いてもそこからそれることはいないであろう」（箴言22:6）との言葉が徒労に終わり、その晩年はその母の教えを離れました。

ソロモンの母の思い、サムエルの母の思いを私は思いださせていただいています。ハンナの祈りを聞いていただきました。ソロモンの母については「主を畏れる女こそ、たたえられる」（箴言31:30）の言葉で聞かせていただいています。そこで私が聞かせていただく大切なものがあります。それは母親に限るものではないのでしょうか。神に生きるすべてのものに対するもので「主を畏れることは知識の初めである」（箴言1:7）との言葉です。この言葉こそ母の日にもう一度しっかりと心にと留めさせていただくべき言葉だと聞くのです。「息子は立って彼女を幸いな人と呼び／夫は彼女をたたえて言う」と言われます。

————— 《 聖書の学び・祈祷会 》 —————

コリントー 14:1-19:12:27-13:13 言葉を通い合わせよう
パウロは一年半滞在してコリントの教会を立ち上げました。彼の心にはコリント教会が、キリストの喜びにあずかる教会として成長してほしいの願っていました。教会のニュースを聞くにつけて気になることへの助言をしてきました。その中で気になることは、彼らの分派活動でした。

そのことについて、私たちはキリストにあって一つであることを語りますが、このことは様々な場面で問題を引き起こしてきました。格差の問題であったり、差別の問題が出てきてキリストの教会を阻害するようなことさえ起こってきました。

キリストは私たちを大切な一人一人として、それぞれに異なった賜物を与えられ、その賜物を用いて神さまをあがめる者として下さいました。異言を語る者の問題が表面に出てきたときパウロは、その賜物は教会が建て上げられるためのものでなくてはならないと、語るのです。



Read God's Word.

次週の聖書・説教

エフェソ1:1-14 あふれる神の恵み